

01 都市との交流

冬の風物詩「しおつ湖わかさぎ釣り」は既に観光事業として定着し、関東圏など日本各地にとどまらず、海外からの来場者も迎えています。さらに一年を通して、都市に閉まれた加による地域活性化を図るため、2009(平成21)年7月に「しおつ公園キャンプ場」、2010(平成22)年11月に「道の駅しんしおつ」をそれぞれオープンしました。190万の人口をもつ大都市・札幌をはじめ、都市に閉まれた利点を十分に活かすため新篠津村の魅力を発信し、都市住民の憩いの場、癒やしの場としてのまちづくりを進めています。



02 子育て

少子高齢化は今後もさらに進行が予想され、新篠津村においても例外ではなく、これを直視しなければなりません。少子化対策として、新篠津村では子育て世代が安心して出産・子育てができるよう国内などの施策に加え、独自事業にも取り組んでいます。「児童養育助成事業」により、3人以上の老子さんがいる世帯に助成金を支給しています。2014(平成26)年から対象年齢を引き上げた「健やか助成」では、満18歳に達する日以後、最初の3月31日までの保険対象医療費を全額助成しています。また、出産までに必要とされる妊娠検診の助成や、子育て支援センターの乳幼児を対象とした赤ちゃんと教室・幼稚教室、小学校低学年対象の託児事業などの運営を支援しています。将来を担う子どもたちの健やかな成長を願い、豊かな心と体を育む取り組みを行っています。

03 教育

小中学校の耐震化が大きな社会問題となり、新篠津村では児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう早急な対応が必要と考え、中学校は改築工事、小学校は耐震化を中心とした大規模改修により整備を行いました。ハード整備が完了し、今後はこれまで以上に児童・生徒の学力向上のために学校教育を支援します。新学習指導要領に沿った取り組みを進めますが、生の英語に早く慣れ親しめるよう、外国語指導助手の配置や「ことばの教室」の設置必要な備品の整備を行っています。また単独事業として小中学校に特別支援学級等学習支援員を配置しているほか、大学生をスクールアシスタントティーチャーとして招き、学習支援の強化を図っています。

「地域づくりは人づくりから」の理念のもと、学校・家庭・地域が一体となって児童・生徒を見守る体制の確立を目指します。

(クリーン農業を推進し、有機JASやYES!CLEAN(北海道独自の制度)などの認証を取得する農業者が増え、安心・安全な農産物そのままがまさに新篠津村の特産品です。今後は、基幹産業の農業を活かしたまちづくりを進め、地域経済の活性化を図る必要があります。いまや一般的な言葉となつた6次産業化、いわゆる地場産品を使用した加工品開発を進めるにあたり、農業と商工業が連携した取り組みを支援します。その第一歩として2010(平成22)年に新篠津村農商工連携協議会が設立されました。同年、新しおつ産直合同会社が設立されました。TPP問題など、農業情勢は厳しい側面もありますが、新篠津村自慢の安心・安全な農産物に付加価値を高めるため、農業と商工業が一体となった取り組みを支援し、地域の活性化を図ります。)

04 農商工の連携

Future これからの取り組み。

新篠津村が描く「未来」には、たくさんの希望と可能性が込められています。心身ともに、より豊かに暮らすためには何が必要で、どんな歩みをめざすべきなのでしょうか。そして、その実現への取り組みを担うのは、無限の可能性をもつ若い世代なのです。後に続く世代に、力強くバトンを手渡します。



9

こころ癒す、
おだやかなときの流れ。

Message 2

チクタク、チクタク。時計の刻みは一定のはずなのに、

ふと気づくと、なんだかのんびりしている自分がいます。

せかせかしていたあの頃と同じ1時間が、こんなにも新鮮。

新篠津の時間は、人の心に合わせて流れを変えます。